

須賀川市立義務教育学校「稲田学園」令和3年度学園だより

とう 雲 稲 雲

第7号

令和3年7月19日発行

発行者：校長 小貫 崇明



○稲田学園の「いなだスタディ」に注目して下さい！

4月から義務教育学校となった稲田学園。教育関係者や地域の方々から「何が一番変わったの？」とよく質問されますが、私（校長）は、「いなだスタディ」という学びを始めましたと答えています。「いなだスタディ」とは「いろいろな体験を通して なりたい自分を見つけ だい好きなふるさとに出合う学習活動」のことで、具体的には今までも実践してきた生活科や総合的な学習の時間、体験学習や地域行事への参加、ボランティアなどを、稲田地域や稲田の子どもたちのためにより特色化した形で実施することで、一層地域を愛しふるさとの将来を担う人材育成につなげたいと考えています。最近の「いなだスタディ」を以下に紹介します。

《職場体験》（7・8年生）

6月30日、7月1日に職場体験を実施しました。7年生は稲田地域内で、8年生はさらに市内の広いエリアの事業所に協力をいただき、様々な職業の体験をさせていただきました。コロナ禍ということもあり、できるだけ多くの事業所に少人数ずつでお世話になることで、子どもたちの多様な興味・関心に応えられるよう実施いたしました。



はたけんぼ（7年）



稲田幼稚園（7年）



tette（8年）



レイマ美容室（8年）

《トマト栽培・ランドセル寄付活動》（6年生）

きっかけは自分のランドセルを恵まれない国の子どもたちのために寄付する活動をした本校卒業生（現高校1年生）の弟である6年生が、自分たちもランドセルを海外の子どもたちのために寄付することはできないかという話からでした。ランドセルを送る国の子どもたちはどんなことに困っているのだろう、ランドセルを送るための資金を



どうすればいいのかなど、真剣に考える子どもたちの思いが、学校や地域の皆さん

↑ トマト栽培の様子
を動かしました。現在、学校ではランドセルの送料を捻出するためにジェイラップさんのご協力でトマト栽培を行っています。また、ランドセルを海外の子どもたちに送る活動をされている写真家の内堀タケシ先生に来ていただき、直接お話を聞くことができました。
←内堀さんの活動は小4の国語の教科書に紹介されています



《稲田地域ジュニアボランティア養成講座への参加》(7～9年生)

稲田地域ジュニアボランティア養成講座には、今年度も7～9年生26名が参加し1年間様々な活動をしていきます。7月8日(木)の開講式では、稲田公民館長さんから「まごごろお届け事業」の一貫としてボランティアに参加する生徒に期待していると話しをいただきました。私からは「ボランティアもいなかスタディの一環であり、地域の方々との交流を大切にしてほしい。」と激励しました。参加する生徒から、「地域の方のために役立つ活動がしたい」「誰かのためになる取組がしたい」「昨年度に取り組んでとても楽しかったため、今年度もがんばりたい」という前向きな意気込みが述べられました。



○健康の基本は「食」にあり～食育に力を入れています～



全国的に学校での保健指導の課題には、コロナ禍の影響もあり家庭でのゲーム時間の長大化とそれに伴う睡眠時間の不足、朝食の簡素化や肥満など、様々な問題が指摘されています。本校は1～9年生までの子どもたちが1つの学校にいることを最大のメリットと考え、児童・生徒に対する長期的な食育指導を実施しています。今年度から配置された栄養技師と担任や養護教諭の協力により、

各学年の発達段階にあわせて「栄養のバランス」や「健康な身体づくりにはどんな食事が大切か」という食事の面から自分の生活を見直す授業を行いました。各家庭でお子さんと一緒に食事や栄養などについて話ししてみてもいいのではないでしょうか。

○東北大会(秋田)に出場決定！

9年の●●●●くんが、7月6日(火)に行われた福島県中学校体育大会陸上競技・共通男子走り高跳びで見事3位に入り、8月8日(日)、9日(月)に秋田県営陸上競技場で開催される東北大会への出場が決定しました。おめでとうございます！



★言葉と生きる(7)「夏休み 旅してみよう 本の森」

本を読むことは旅に例えられることがあります。昔から「かわいい子には旅をさせろ」と言っていたことを忘れるほど、今は新型コロナウイルスの影響で「旅をする」ことのイメージが、わくわく感よりも感染対策などへの配慮や心配がまず先行する世の中になってしまいました。でも、本を読むという旅なら、実際に出かける旅と比べてとても安全ですし、借りて読むならお金もかかりません。どんどん旅してほしいです。幸運なことに、我が稲田学園にはメディアセンターという「本の森」があります。市内には tette というさらに巨大な「本の森」もあります。コロナ禍でなかなか家族旅行にも行けない夏休み。オリ・パラのテレビ観戦や youtube、家族や友だちとのゲーム対決も楽しいとは思いますが、液晶画面ばかり見て目が疲れないようにするためにも、「本の森への旅」を楽しんでみてはいかがでしょうか。もちろん、夏休みの課題も忘れずに…(笑)

